

タイガー 天敵ニラミ ロケットバング

商品コード 01001035000/型式：TRB-5

取扱説明書



1. 使用上のご注意

P.1/P.2

2. 梱包内容

P.3

3. 設置図・ガスボンベの取り扱いについて

P.4

4. 設置と組立て

P.5 ~ P.12

5. プリント基板

P.13

6. 操作方法

P.14 ~ P.16

7. 日常点検・長くご使用いただくために
長期間使用しない場合・オプション（別売）・
補修用性能部品の保有期間

P.17/P.18

8. 故障かな?と思ったら・・・

P.19/P.20

仕様・能力

裏表紙

※ガスボンベ、アルカリ乾電池単一形は別途ご準備ください

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます
この説明書にはタイガー天敵ニラミ「ロケットバング」の使い方がまとめられています
内容を理解した上で、正しくご使用ください お読みになったら後は大切に保管してください
尚、本仕様および外観は製品改良のため予告なく変更する場合がありますのでご了承ください

本製品の関連情報はホームページをご覧ください
(<http://www.tiger-mfg.co.jp>)



●本機の設置・ご使用前によくお読みの上、正しくご使用ください

ここに表示した使用上の注意は製品を安全に正しくお使いいただき、ご使用になる方や周囲の方への危害や損害を未然に防ぐためのものです
いづれも安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。またご使用に関しては法律及び条令を守り正しくお使いください

- 表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を「危険」「警告」「注意」に区分し説明しています



危険



警告



注意

- してはいけない行為と
しなければならない行為に区分しています



してはいけない行為を示しています。



しなければならない行為を示しています。



危険

誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷などを負う可能性が切迫して生じることが想定される内容です。



接近禁止

雷が発生しているときは、本機に近づかない。また設置中の場合は速やかに設置を中断し、本機から離れる
落雷による感電の原因



接触禁止

心疾患をお持ちの方は本機には絶対に触れない
ペースメーカーや医療機器等の作動に悪影響を及ぼす原因



禁止

送電線・配電線の付近で設置しない
感電の原因



警告

誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。



火気禁止

本機の5m以内では火気の使用を避け、農作物や樹木などの可燃物を置かない
火災の原因



禁止

使用中はできるだけ本機に近づかず、爆音筒を覗き込んだり、耳を近づける行為を行わない
失聴・難聴・やけどの原因



分解禁止

修理技術者以外は本機の分解・修理・改造を行わない。故障・破損した場合は使用せず、販売店にご相談ください
異常動作の原因



禁止

予想以上の爆音が発生する可能性があるため、音が反響しやすい建物や壁の近くで使用しない
失聴・難聴の原因



接触禁止

心疾患をお持ちの方は本機には絶対に近づかない
ペースメーカーや医療機器等の作動に悪影響を及ぼす原因



禁止

傾斜地・砂地・沼地など不安定な場所では設置しない
本機の転倒による火災の原因



本機やガスボンベは風通しの良い屋外に設置してください
火災の原因



本機を操作したり、やむを得ず使用中に近づく場合は不意の爆音に備え、必ず耳栓を装着する
失聴・難聴の原因




本機を停止させるときはコントローラのスイッチを「切」にし、ガスボンベの元栓も締める
(元栓を締めた後でも本機が動作していると1～2回爆音を発することがあります。十分にご注意ください)





移動や修理点検などで本機に近づく場合は必ず本機を停止させ、ガスボンベの元栓を締める
失聴・難聴の原因


 他の方が不用意に近づかないよう、よく見える場所に「危険表示」をして注意喚起をする

 **注意** 誤った取扱いをすると、人が障害を負ったり、物的障害の発生が想定される内容です。
(状況によっては、深刻な危険に結びつく可能性もあります。必ず守ってください。)

 風が強い時（風速 6m以上）は本機が転倒・破損する可能性があるため使用を中止する
火災・やけどの原因
禁止


 本機を落としたり、ぶついたりしない また万が一破損した場合は使用しない
火災・ケガ・感電・ガス漏れの原因
禁止


 使用中や使用直後は爆音筒および混合管などが高温になるためむやみに触らない
やけどの原因
禁止

 リード線（高圧）やゴム管などを踏んだり、重たいものを乗せたり傷つけたりしない
火災・感電・故障・ガス漏れの原因
禁止


 濡れた手で電子コントローラなどの電子部品を操作したり、触れたりしない
故障・感電の原因
ぬれ手禁止


 民家の近くや公道の近くで使用しない
目安として民家から 350m以上、公道から 100m以上離し、筒先を民家に向けない
(自治体の指示や条例がある場合はそれに従っていただき、近隣の方の迷惑にならないようにご配慮ください)


 雨量の多いときに水没するおそれがある場所・湿気の多い場所では使用しない
電子コントローラの故障の原因
禁止

 本機やガスボンベが転倒しないよう、不燃性の杭などでしっかりと固定する
事故や火災の原因

 消耗部品などはタイガー純正品を使用する
事故や故障の原因


 設置後は必ず 1日 1回点検をし、各所の劣化や、ネジの緩みがないか安全確認をする
万が一、ガス漏れ音やガス臭さを感じた場合は直ちに使用を中断する
火災や事故の原因

 早朝・夜間の使用は周囲の迷惑になるため、なるべく使用を避ける
また使用する自治体の騒音に関する指示や条例に従い、使用する

 ガスボンベは高温になると安全のため安全弁が作動し、内部のガスを一定量放出することがあるため
ガスボンベが高温にならないようにする
火災の原因

 本機やガスボンベへの漏電を防ぐために必ず説明書どおりにアースをとる
故障・火災・感電の原因

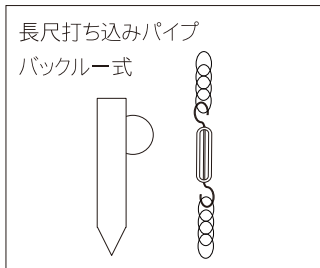
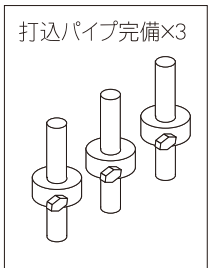
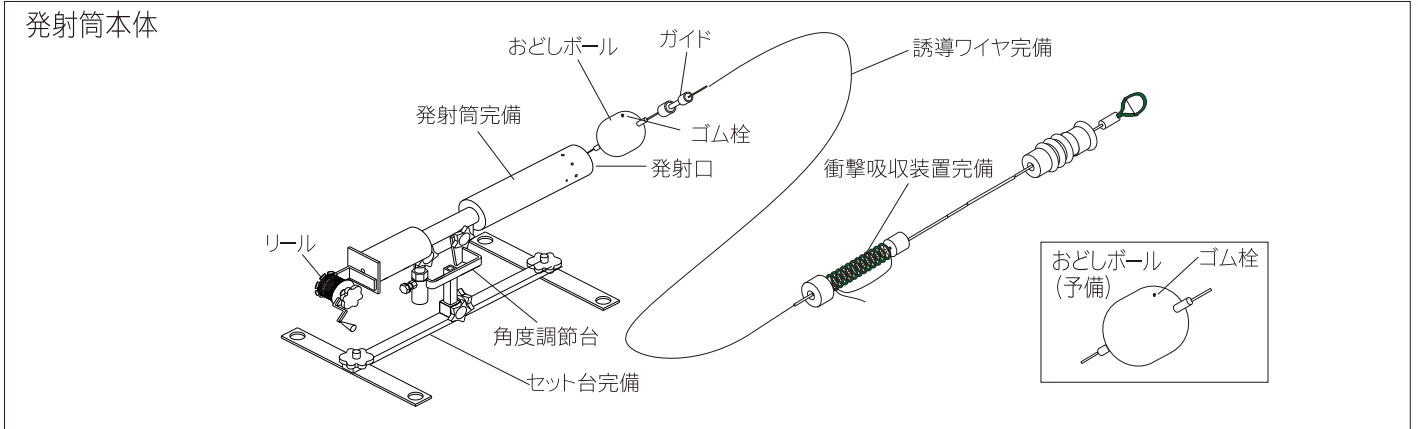
 他の方に譲渡や貸与する場合は取扱説明書などの注意事項を徹底させる

 爆風を受ける場所では耳栓をしていてもむやみに近づかない
失聴・難聴の原因

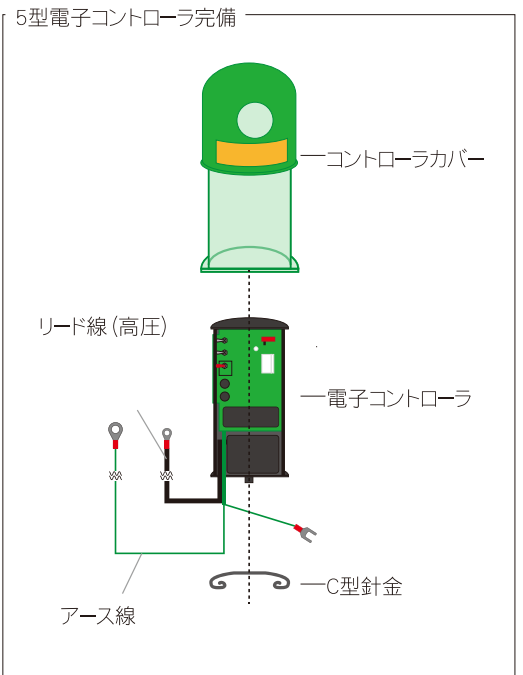
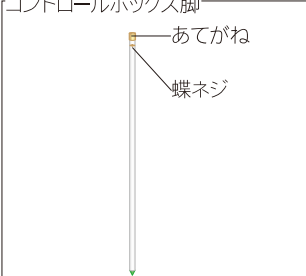
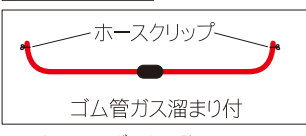
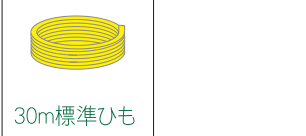
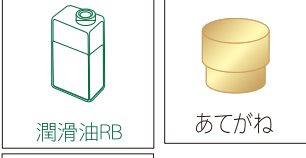
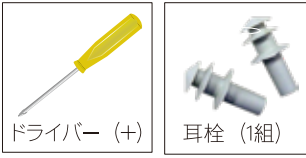
梱包内容

設置を行う前に部材を確認してください 梱包は「本体部」と「ポール部」に分かれています

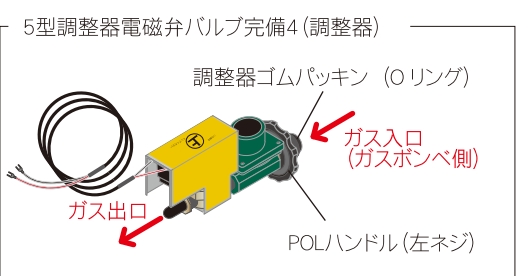
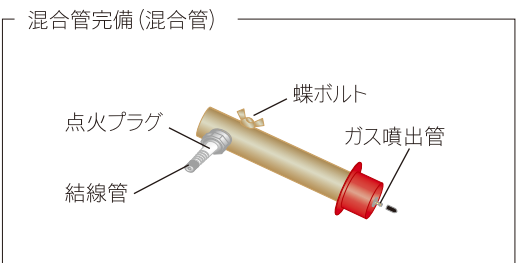
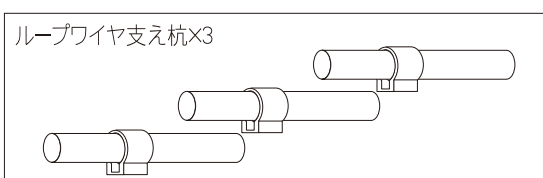
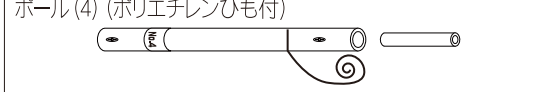
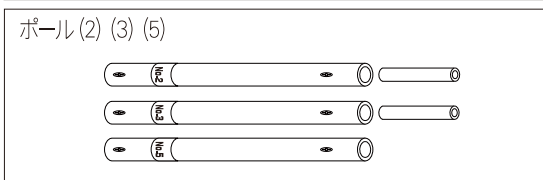
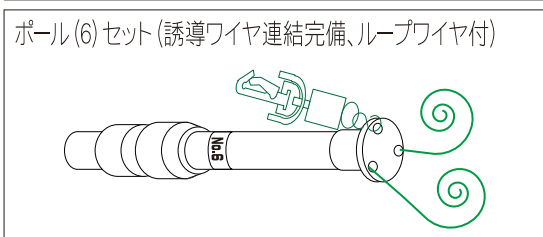
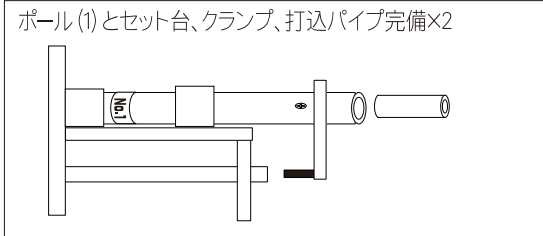
本体部



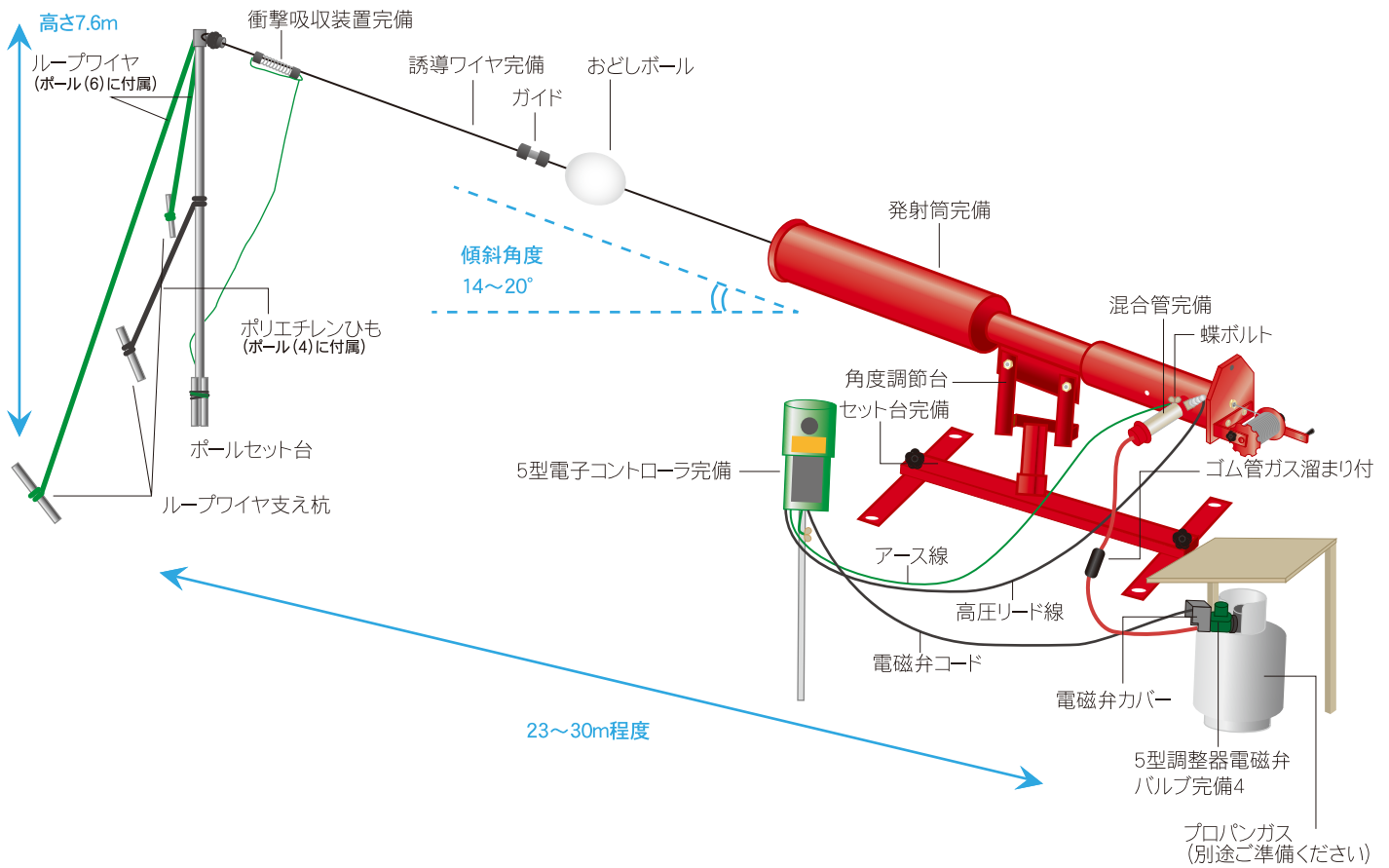
付属品一式



ポール部



■ 設置図 (詳しい組み立て方は P5 ~ P7)



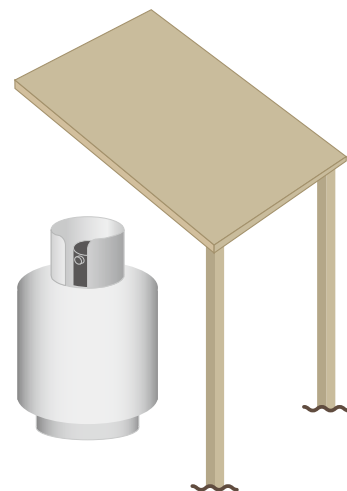
■ ガスボンベの取扱いについて

- 本機を設置する際はガスボンベが高温にならないように直射日光を避け、日陰で風通しの良い場所に設置してください
- 転倒・破損しないようご注意ください
- バルブ開閉は静かにおこなってください



※ガスボンベは温度が上がりすぎると、安全のために安全弁が作動して内部のガスを一定量放出することがあります
火災の原因になる可能性があります
高温にならないよう十分にご注意ください

※直射日光を避けるため日よけはお使いいただけますが、ガスが滞留しないように大きく解放された状態でご使用ください
箱のような中に収めての使用は絶対におやめください



■ 設置位置

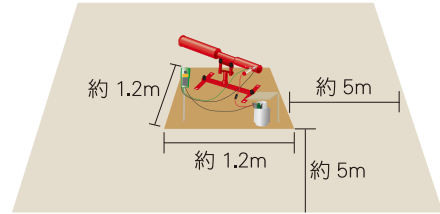
① 発射筒本体の設置位置を決めます

本機やガスボンベは右図のように風通しの良い屋外で
1.2m四方程度の平らな場所に設置してください
凸凹や傾斜がある場合には平らにならしてください

ガスが滞留しないように大きく解放された状態でご使用ください

本機の5m以内では火気の使用を避け、
農作物や草木など燃えやすいものは除去してください

※箱のような中に収めての使用は絶対におやめください

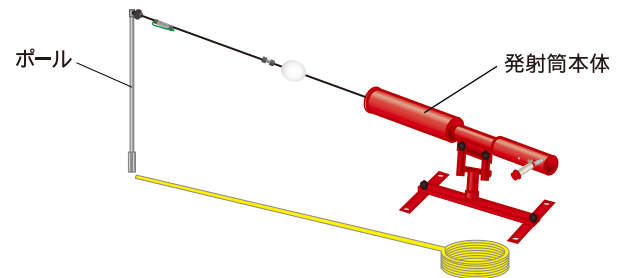


② ポールの設置位置を決めます

発射筒本体設置位置から付属の
30m標準ヒモが届く範囲の場所を確保してください

※ポールと発射筒本体の距離は必ず、30m標準ヒモが届く範囲にしてください
おとしポールやガイドが戻らなくなります

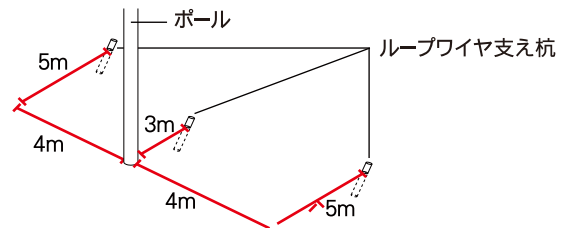
※ポールは発射筒本体に対し、水平もしくは高い位置に設置してください



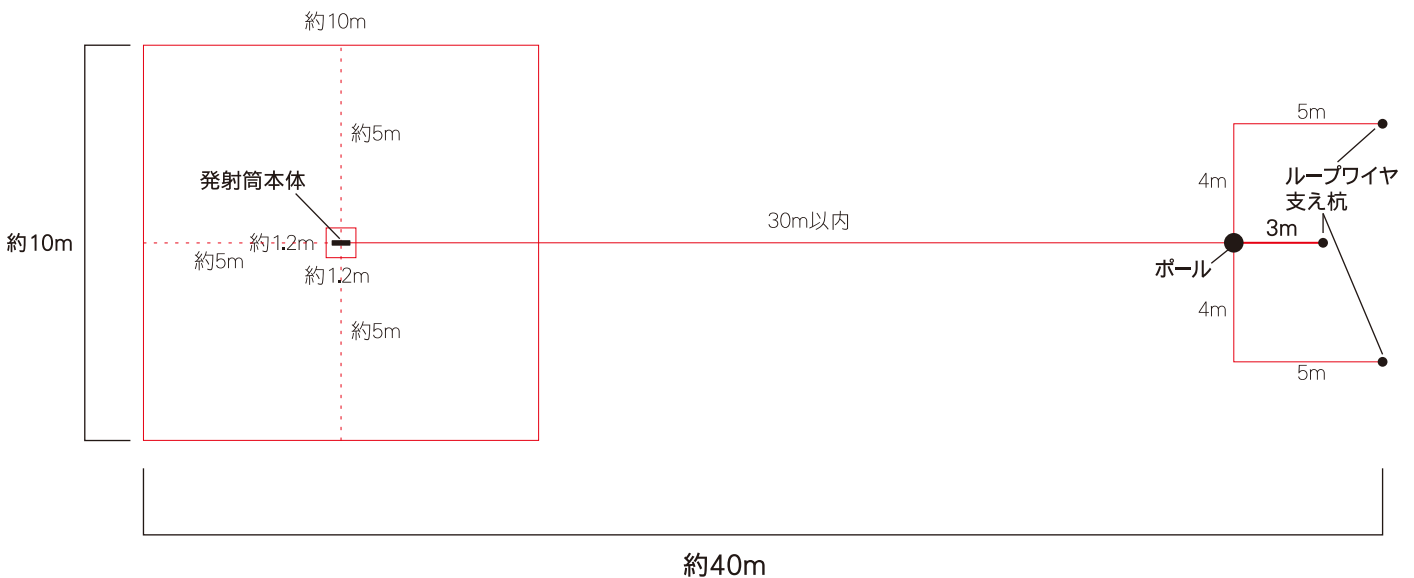
ポールの設置位置は付属の30m標準ヒモが届く範囲

③ ポール固定用のループワイヤ支え杭の位置を決めます

ポールの後方3mに1本、後方5m・左右4mに1本ずつ
計3本を目安として、場所を確保してください
ただし、ポールの設置状況により打ち込み位置を変えてください

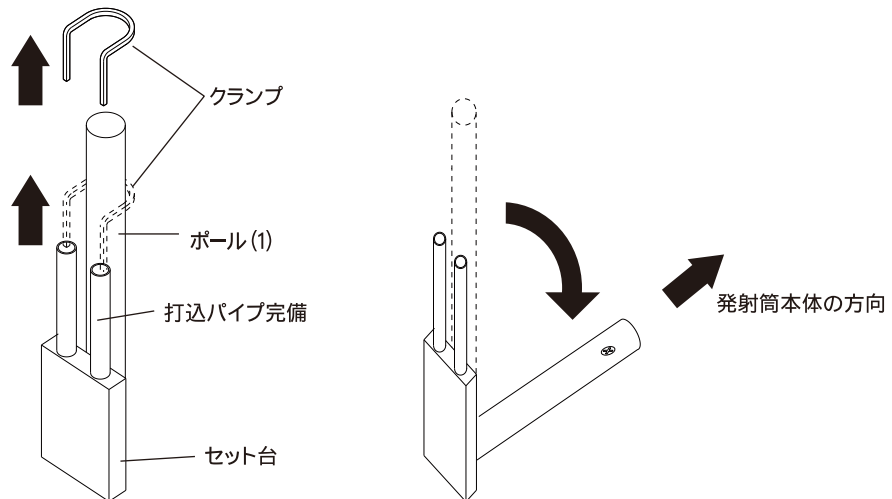


全体設置位置を上から見た図

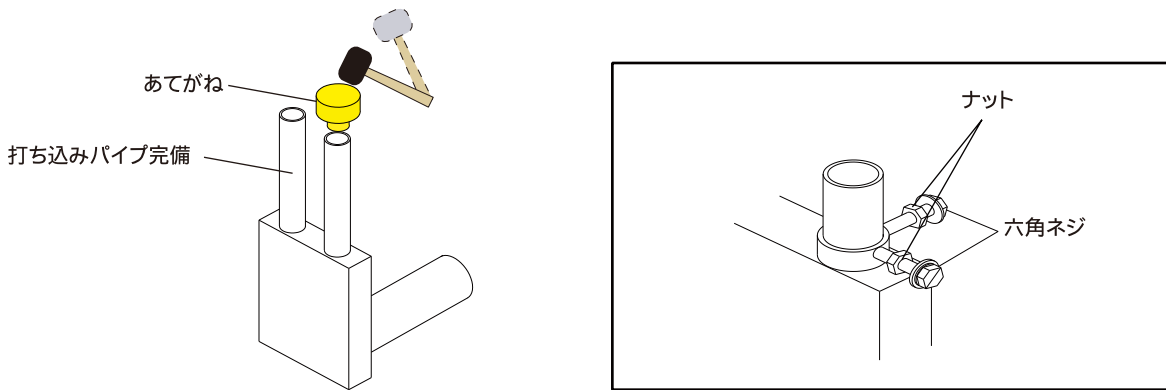


■ 設置と組み立て

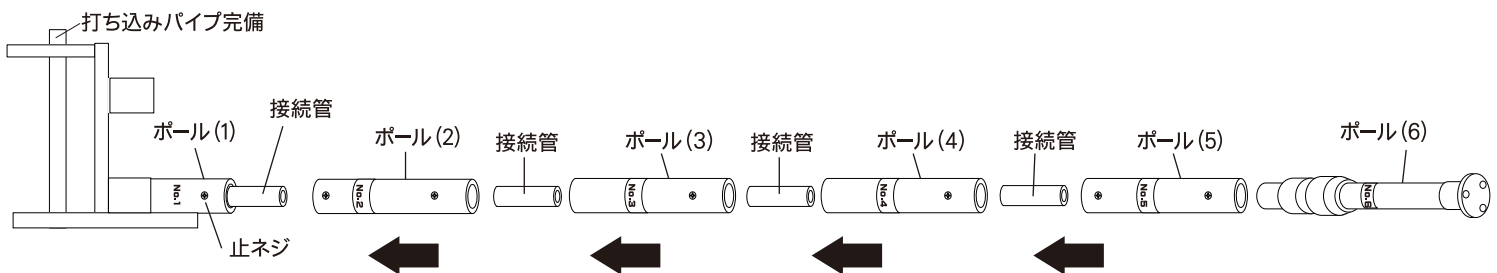
①クランプを打込パイプ完備から抜き、ポール(1)を発射筒本体の方向に倒します



②セット台の打込みパイプ完備にあてがねを被せ、しっかりと打ち込みます
打ち込みが終わったら、六角ネジとナットで打ち込みパイプを固定します

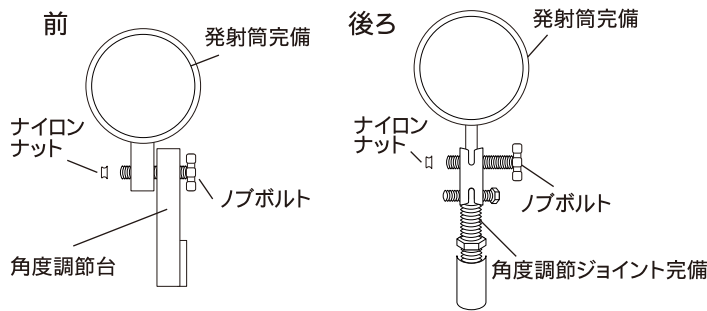


③ポール(1)に接続管を止ネジのあるところまで差込み、ポール(2)を接続管に差込みます
この順序でポール(5)まで接続し、最後にポール(6)を差込みます

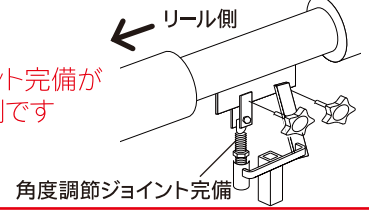


※ポールの順番を間違えずに接続してください ポールを固定するポリエチレンひも・ループワイヤーが張れなくなります

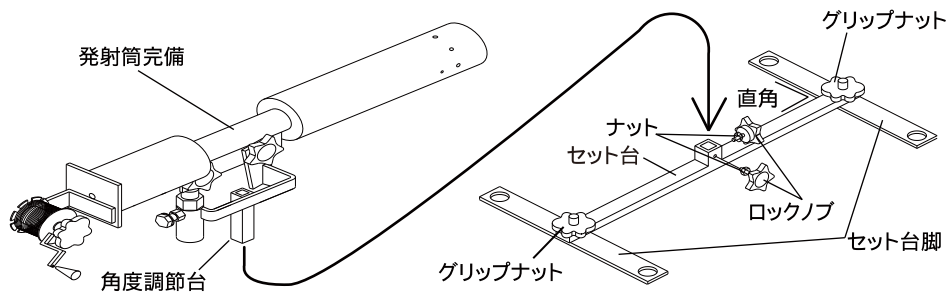
④発射筒完備に角度調節台を取り付けます 発射筒完備の取付穴と角度調節台の取付穴を合わせ、仮締めします



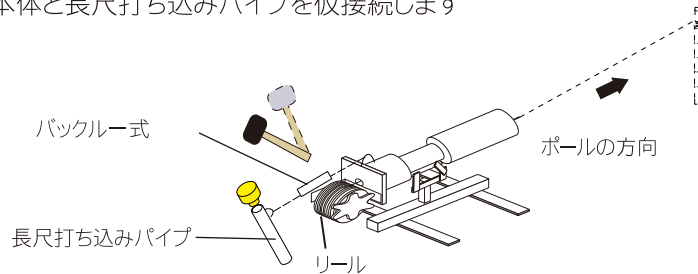
※角度調節台は
角度調節ジョイント完備が
発射筒のリール側です



⑤セット台のグリップナットを緩めセット台脚とセット台が直角になるように固定します
次にセット台中央の穴に角度調節台の脚を差込みロックノブで
角度調節台を固定し、ナットでロックノブを固定します

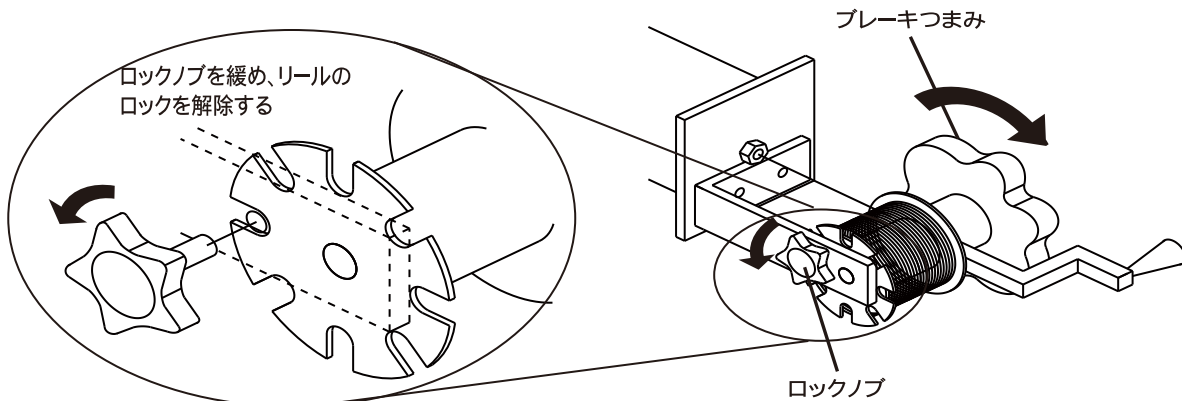


⑥発射口をボールの方向に向け、本体の後ろのリールから後方約50cmに長尺打ち込みパイプを打ち込み基準線まで打ち込みます
その後、バックル式で本体と長尺打ち込みパイプを仮接続します

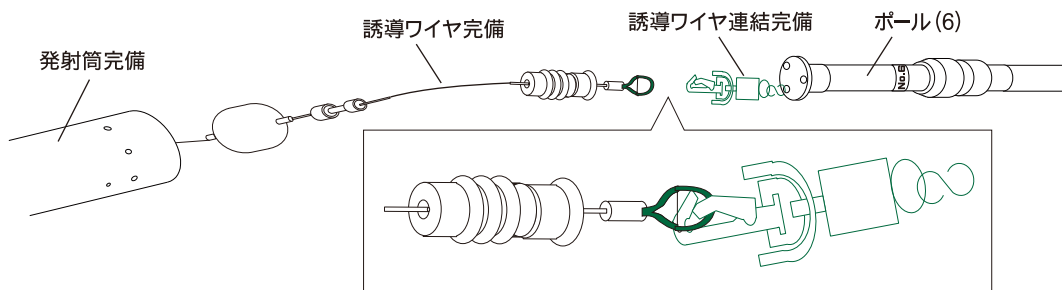


⑦ブレーキつまみを軽く緩め、ロックノブを緩めてロックを解除します

※ブレーキつまみを揺るめ過ぎるとワイヤがバラけることがあるので注意してください

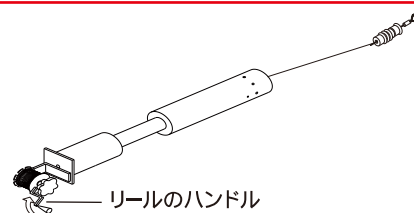


⑧発射筒完備から誘導ワイヤ完備を取り出し、ポール(6)先端の誘導ワイヤ連結完備に取り付けます

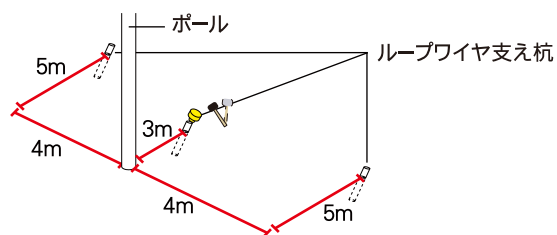


※誘導ワイヤはロックが外れると自然に緩み、リール内で絡まってしまいます

誘導ワイヤを引き出すときはリールのハンドルを引きながら、
誘導ワイヤに張力を持たせつつ、ゆっくりと引き出してください

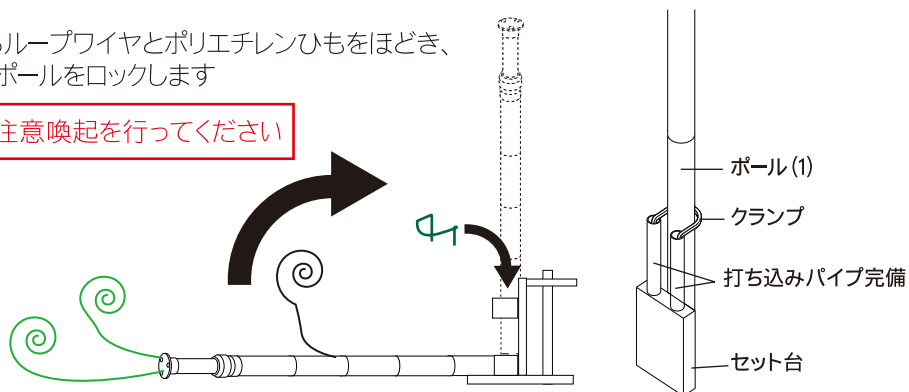


⑨右図を参考にループワイヤ支え杭を打ち込みます
ただし、ポールの設置状況により位置を変えてください

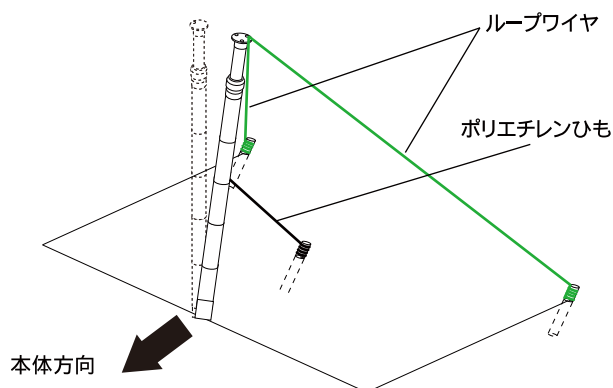


⑩ポール(6)及び、ポール(4)に取り付けてあるループワイヤとポリエチレンひもをほどき、
ポールを起こすように立てていきクランプでポールをロックします

※ポール完備を立てるときは、周囲の人に注意喚起を行ってください



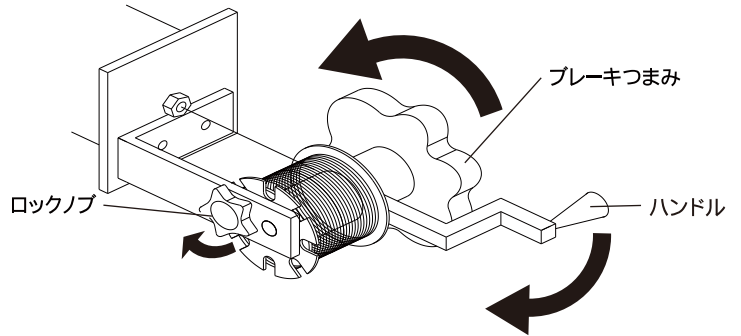
⑪ループワイヤ、ポリエチレンひもをループワイヤ支え杭に巻きつけます
このとき、ポールは本体とは逆方向にやや倒れ、左右の傾きがないようにループワイヤを仮止めします



①ハンドルを反時計回りに回し、誘導ワイヤ完備を張ります

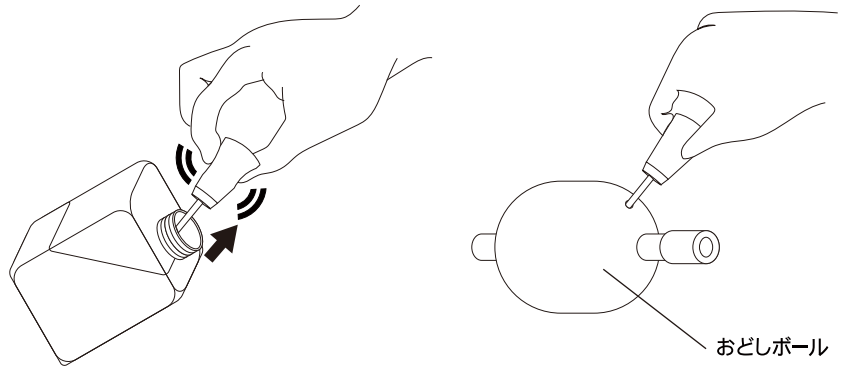
※誘導ワイヤを強く張りすぎないでください

ロックノブを時計回りに回し、リールを固定し、
ブレーキつまみを時計回りに回し、さらに固定します



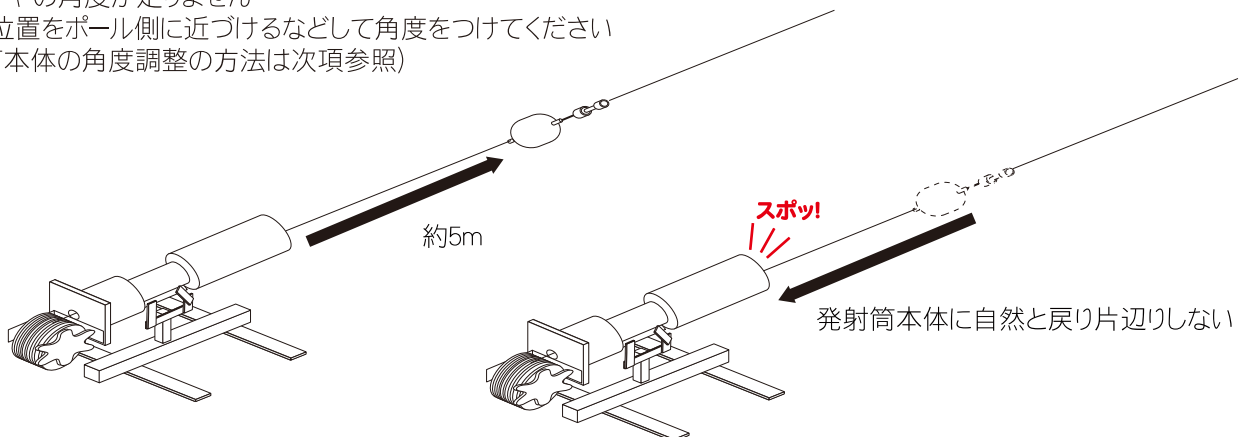
②付属の「潤滑油RB」から付属のオイル差しを使用し、おどしボールに潤滑油を注入します

※おどしボールには定期的に給油が必要です
オイル注し(約20cc)1本を
10日に1回の割合で給油してください
オイルは弊社純正品をお使いください



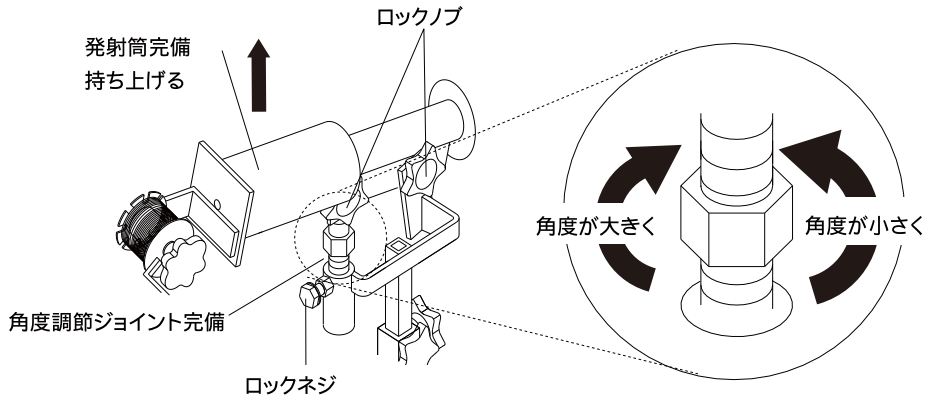
③おどしボールを本体から4~5m程度引き出し、手を離れた時に
おどしボールが発射口にスムーズに戻る事を確認してください
発射口の左右、上下どちらかに片切りしているときは、
発射筒本体の角度を調整してください

また発射口までおどしボールが戻らず、ワイヤの途中で止まるときは
誘導ワイヤの角度が足りません
本体の位置をポール側に近づけるなどして角度をつけてください
(発射筒本体の角度調整の方法は次項参照)



- ⑭発射筒本体の角度の調整をします(⑬でおとしボールが戻らなかった場合に行います)
 角度調節ジョイントで、本体の上下角度を変更してください

発射筒完備の後ろ側を持ち上げながら角度調節ジョイント完備のナットを回し、発射筒本体の角度を調整します
右回り→角度が小さくなる 左回り→角度が大きくなる
 発射筒完備を下し、調節ジョイントをロックネジで固定し、発射筒完備をロックブとナイロンナットで固定します

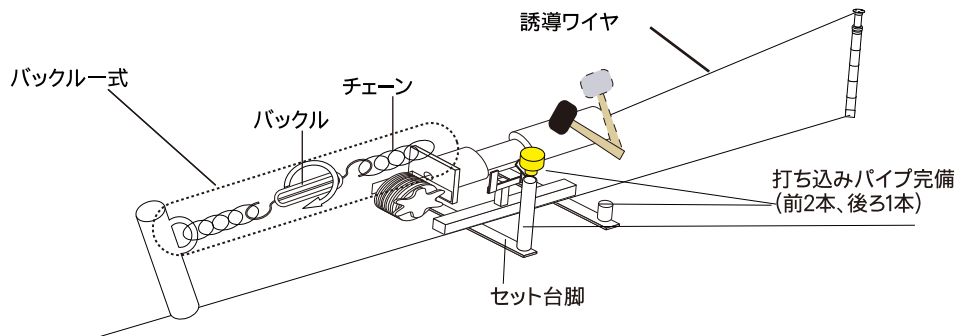


- ⑮本体の微調整が終わったら、本体のセット台脚を打込パイプ完備(3本)で固定します

※前行程で調整したワイヤと本体が狂わないように注意してください

本体と長尺打ち込みパイプをつないでいるバックル式のチェーンがピンと張るまでバックルを締め込んで行きます

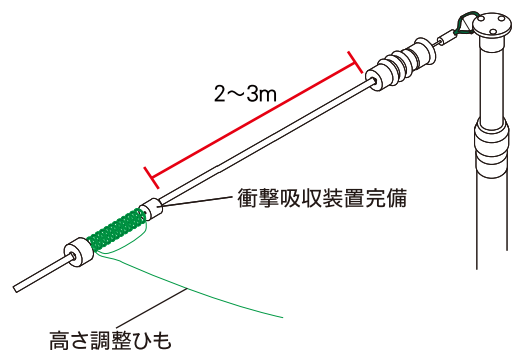
※バックル式を張ったときに、誘導ワイヤとバックル式が一直線になる様にしてください



- ⑯衝撃吸収装置完備をポール先端から2~3mのところに合わせて

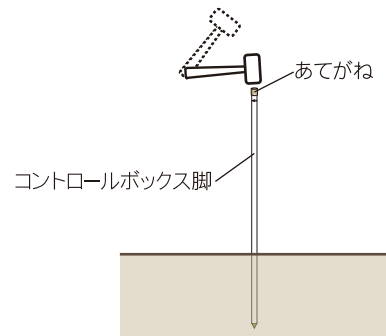
※衝撃吸収装置完備が、可動できるように
 高さ調整ひもは緩めに取付けてください

強く引きすぎると、おとしボールが当たったときに可動できず、
 衝撃吸収装置完備や誘導ワイヤ完備の劣化促進の原因となります



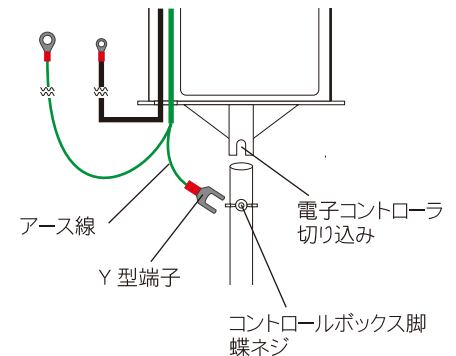
- ⑰コントロールボックス脚に付属のあてがねを被せ、地面に打ち込みます
コントロールボックス脚はアースの役割もあります しっかりと打ち込んでください

※コントローラは樹木などの物陰にならないように設置してください
光センサーの感度に影響する場合があります



- ⑱電子コントローラの切り込みとアース線の Y 型端子を
コントロールボックス脚の蝶ネジに挟み込み、しっかりと締め込んでください

※アース線が接続されていないと故障の原因になることがあります

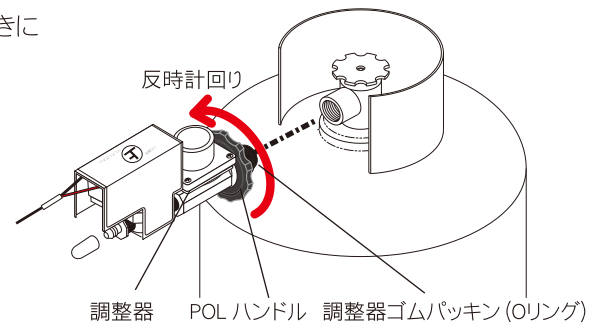


- ⑲ガスボンベに調整器を取り付けます 電磁弁カバーのⒺシールが上向きになるようにし、ガスが漏れないようにしっかりと締め付けます
POL ハンドルは左ネジです 反時計回りに締め付けてください

※電磁弁の上下を逆にすると故障や誤作動の原因になります

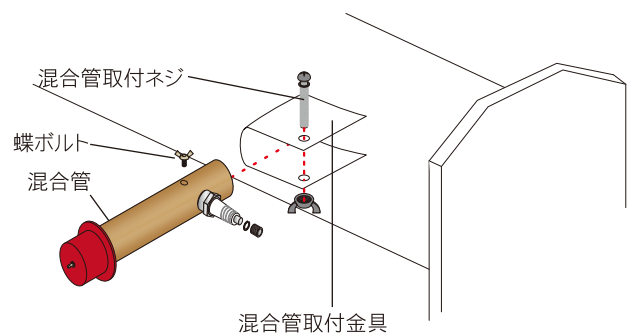
※ガスボンベに取り付ける際は「調整器ゴムパッキン (Oリング)」にひび割れ、キズ、亀裂、へたりなどの損傷や劣化がないことを確認してください
(ガス漏れ・火災の原因になります)

※「調整器ゴムパッキン (Oリング)」は1年に1度の交換をおすすめします

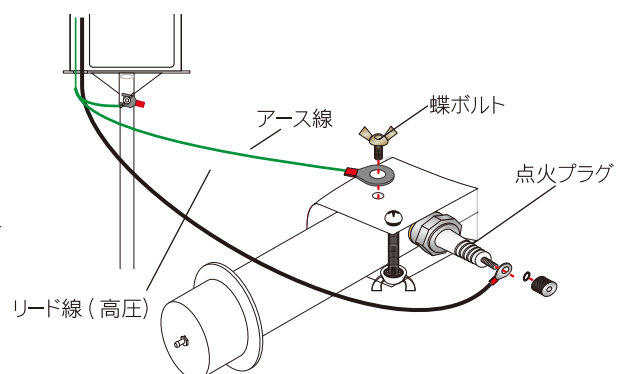


- ⑳混合管の蝶ボルトを外し、
混合管を爆音筒の混合管取付金具に差し込み、
付属の混合管取付ネジでしっかり固定します

※必ず混合管取付ネジでしっかり固定してください
蝶ボルトでは固定できません
取り付けが不十分だと使用中に振動などで、外れる場合があり、
火災の原因になるおそれがあります

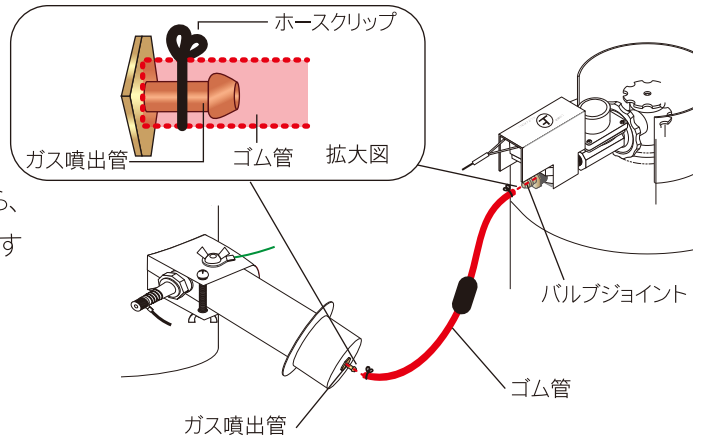


- ㉑リード線 (高圧) (黒線) を混合管完備の点火プラグに取り付け、
アース線 (緑細線) の丸端子を混合管完備の蝶ボルトに取り付けます

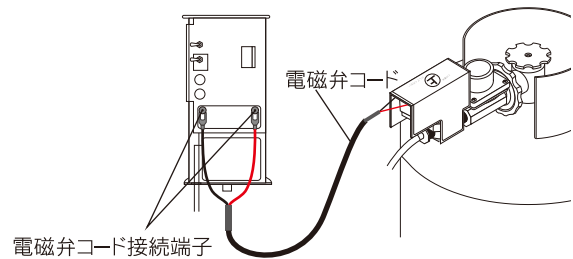


- ⑳ ゴム管を調整器のバルブジョイント、混合管のガス噴出管にそれぞれ取り付けます
奥までしっかり差し込んでください
このとき、予めゴム管の先端にホースクリップを配置してから、ゴム管を差し込むとホースクリップの取り付けが簡単になります

※ゴム管内にゴミや泥などがあるとガス噴出管が詰まって音が小さくなったり、鳴らないことがあります
取り付けの際はゴム管内に泥やゴミがないことを確かめてください



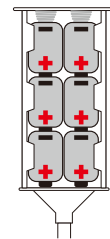
- ㉑ 電磁弁コードを電子コントローラの電磁弁コード接続端子に取り付け、結線ネジを締め込みます
(黒色と赤色の電磁弁コードと電磁弁コード接続端子に+の極性はありませぬ)



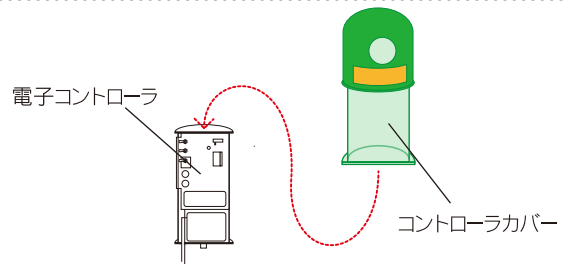
- ㉒ 電子コントローラ背面の電池挿入部にアルカリ乾電池単一形を6本挿入してください

※乾電池を挿入する時は必ずコントローラの主電源を「切」にしてから行ってください

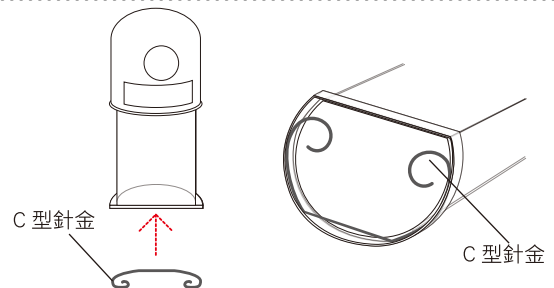
※乾電池の方向を間違えないでください 基板の故障や乾電池の液漏れの原因になります



- ㉓ 電子コントローラにコントローラカバーを被せます



- ㉔ コントローラカバーが外れないようにC型針金で固定します

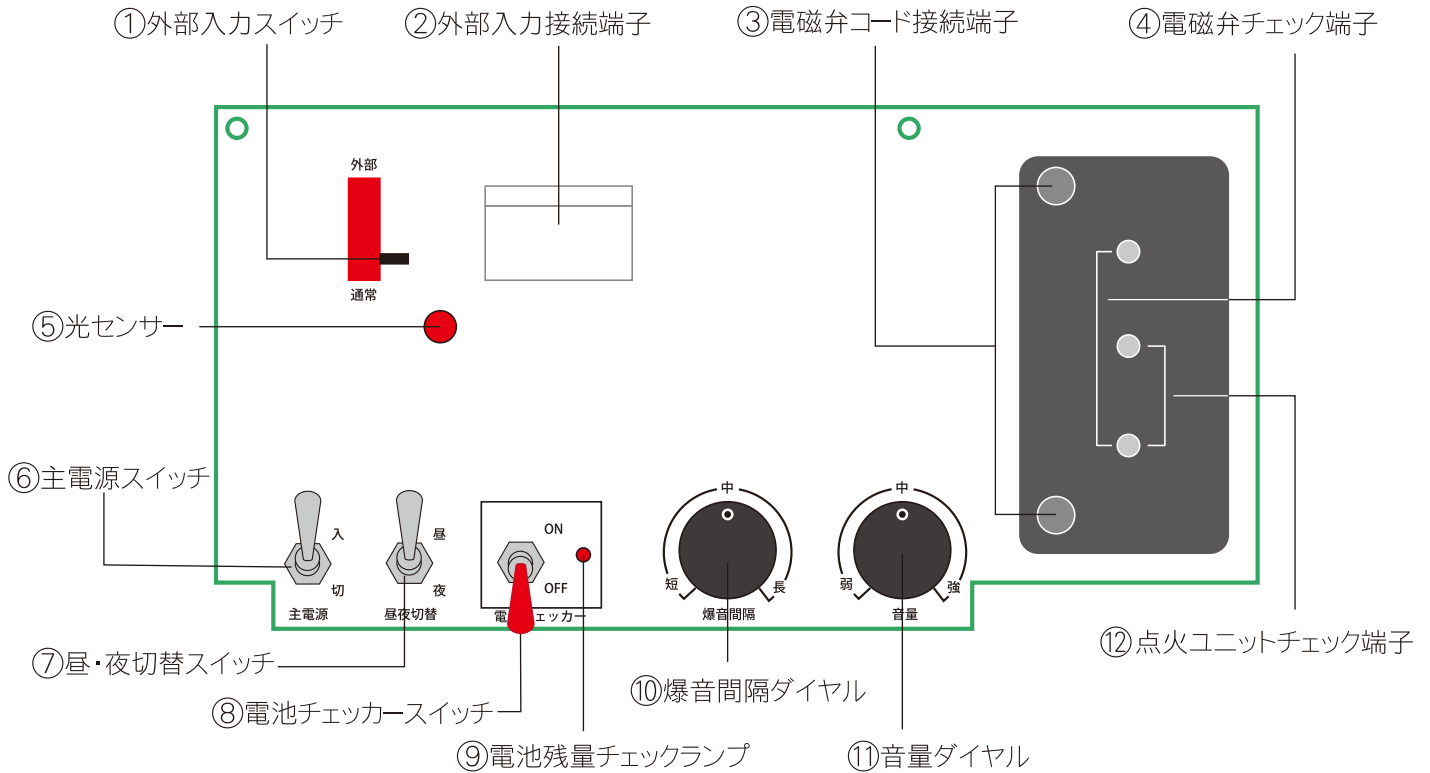


- ㉕ 付近を通る人が見えやすい位置に危険表示板を設置してください



完成です

■ プリント基板（電子コントローラ内） ※プリント基板は機種ごとに異なります



①外部入力スイッチ：通常使用の際は「通常」に、オプションを使用の際は「外部」に切り替えます

②外部入力接続端子：オプションを接続します

③電磁弁コード接続端子：電磁弁コードを接続します ※接続する電磁弁コードに＋の極性はありません

④電磁弁チェック端子：電磁弁の動作を確認する際に使います (P20)

⑤光センサー：太陽の光で昼夜を判断します

⑥主電源スイッチ：本体の主電源を入切するスイッチです

⑦昼・夜切替スイッチ：昼モード・夜モードを切り替えるスイッチです

⑧電池チェッカースイッチ：電池残量をチェックします 電池残量が十分であれば、スイッチをONにした際にランプが点灯します
その際、電磁弁接続コード端子にも電気をながします ※主電源スイッチが「切」のときに動作します

⑨電池残量チェックランプ：電池残量が十分であれば電池チェッカースイッチで確認した際に点灯します

⑩爆音間隔ダイヤル：ダイヤルを回して爆音間隔を調整できます 最短 約30秒、最長 約10分間隔です

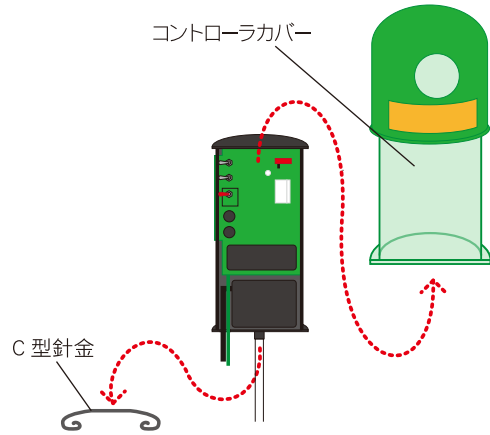
⑪音量ダイヤル：ダイヤルを回して音量を調整できます

⑫点火ユニットチェック端子：点火ユニットの動作を確認する際に使います (P20)

■ 動作開始

① 電子コントローラのC型針金、コントローラカバーを順に外します

※必ずガスボンベの元栓を閉じた状態で操作してください

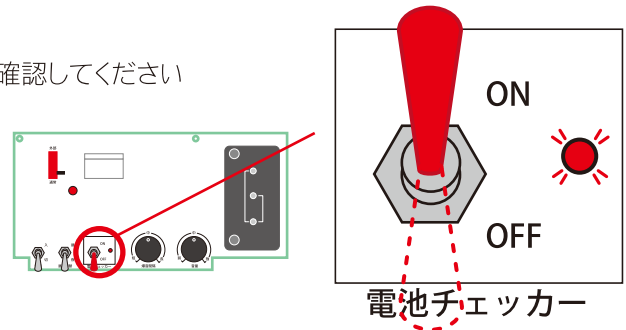


② 電池残量をチェックします

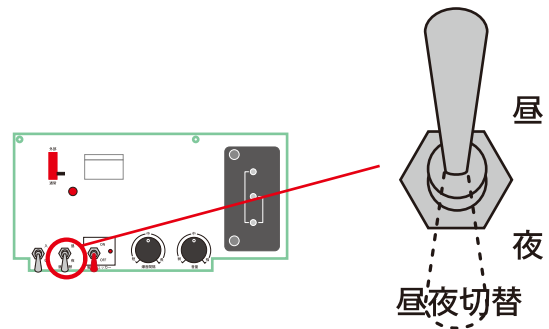
電池チェッカースイッチを「ON」にしてランプが点灯することを確認してください
点灯しない場合は新しい電池と交換してください

※主電源スイッチが「切」になっていることを確認してください

※誤作動をふせぐため、電池チェッカーを「ON」にしてから1分間は
主電源スイッチを「入」にしないでください



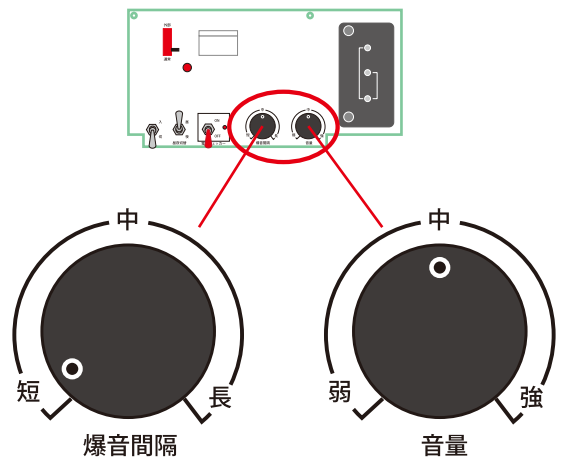
③ 昼・夜切替スイッチを「昼」もしくは「夜」に設定します



④ 爆音間隔と音量のテストをします

爆音間隔ダイヤルを「短」に、音量ダイヤルを「中」に設定します

※必ず耳栓をしてください

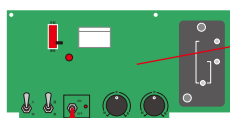


- ⑤主電源スイッチを「入」にして、ガスボンベの元栓を開き、すみやかに20m以上離れてください

※余分な空気を除去するため開始直後の数回は爆音を発しない場合があります

※爆音筒内にガスが残っている場合、主電源を入れた時に誤着火する場合がありますので、ご注意ください

※ロケットバング (TRB-5、LPE-RB-C5) は主電源を「入」にしても直後に爆音を発しない設計になっています



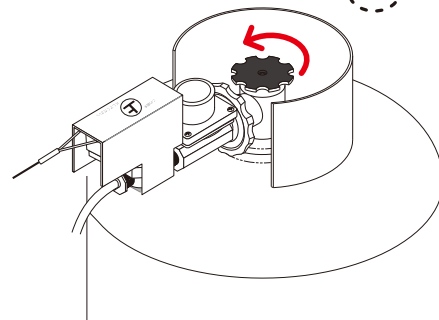
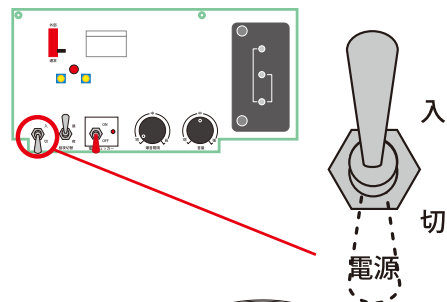
ロケットバング (TRB-5、LPE-RB-C5)

緑色のプリント基板

茶色のプリント基板

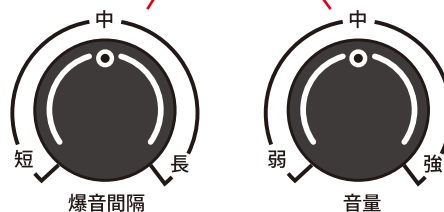
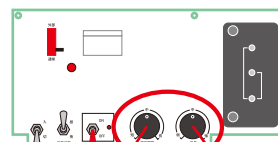


ロケットバング (LPE-RB-C4)

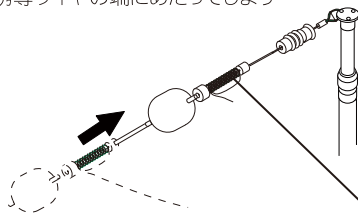


- ⑥爆音を数回確認した後、任意の爆音間隔・音量に設定してください
爆音間隔は最短 (短) 約30秒～最長 (長) 約10分です

※爆音間隔や音量を調節するときは本機が爆音を発した後、すみやかに本機に近づいてガスボンベの元栓を閉め、電子コントローラの主電源スイッチを「切」にしてからおこなってください



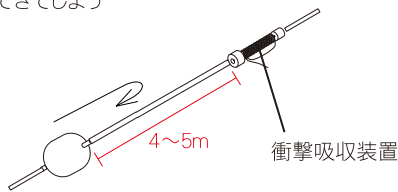
おとしボールが衝撃吸収装置完備を押し上げて、誘導ワイヤの端にあたってしまふ



衝撃吸収装置完備

× 飛びすぎ
音量ダイヤルを「弱」方向に回してください

おとしボールが衝撃吸収装置完備の4～5m下で戻ってきてしまふ

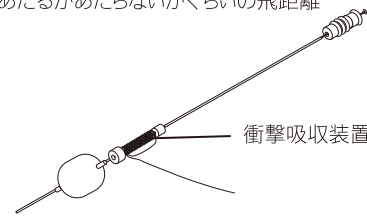


4～5m

衝撃吸収装置

× 弱すぎ
音量ダイヤルを「強」方向に回してください

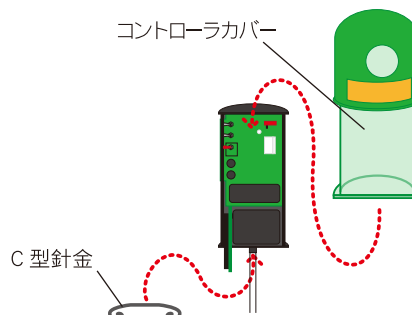
おとしボールが衝撃吸収装置完備にあたるかあたらないかぐらいの飛距離



衝撃吸収装置完備

○ 良好

- ⑦コントローラカバー、C型針金を取り付けて完成です

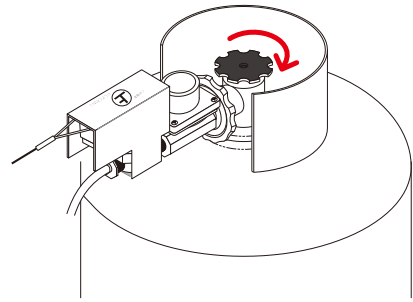


コントローラカバー

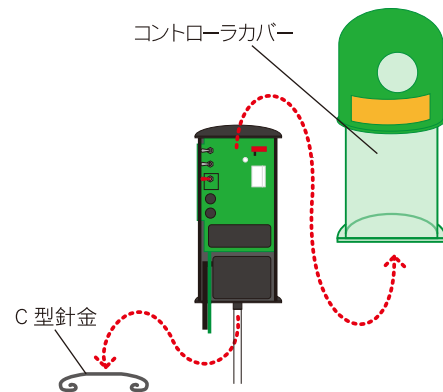
C型針金

■ 使用中断・停止

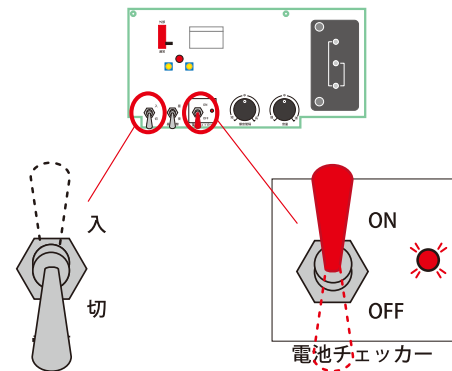
① ガスボンベの元栓を締めます



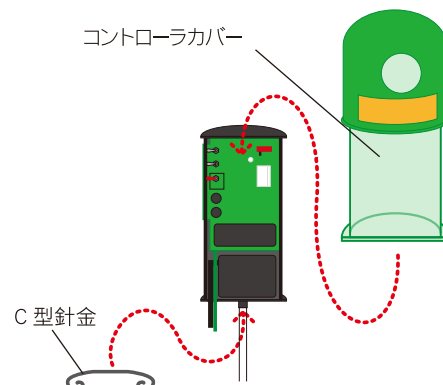
② コントローラのC型針金、コントローラカバーを順に外します



③ 主電源スイッチを「切」にします
電池チェッカースイッチを2～3秒「ON」にして
電磁弁やゴム管に残っているガスを放出します
(このとき、点火プラグは動作しないので爆発することはありません)



④ コントローラにコントローラカバー、C型針金を取り付けます



■ 日常点検

必ず1日1回は本機を点検して安全の確認をしてください

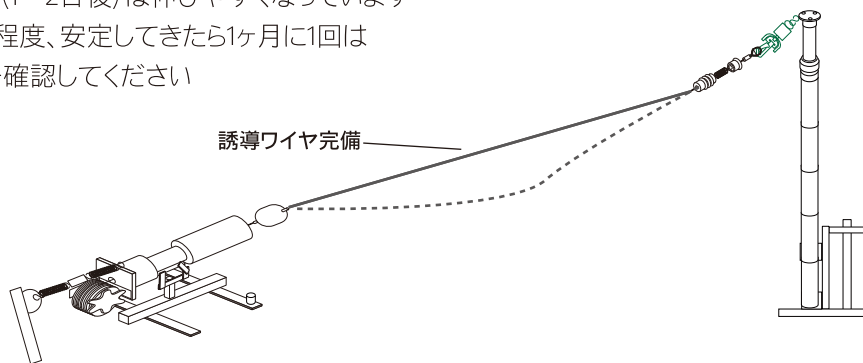
- ネジの緩みはないか
- 劣化や破損はないか
- ガス漏れやガス臭さはないか
- 本機やガスボンベは横転しそうでないか
- 本機の5m以内に燃えるものはないか (草刈りを定期的に行ってください)
- ガスボンベが直射日光にさらされるなどして高温になっていないか
- 危険表示板が設置されているか

異常がある場合は直ちに使用を停止し、お買い求めの販売店にご相談ください

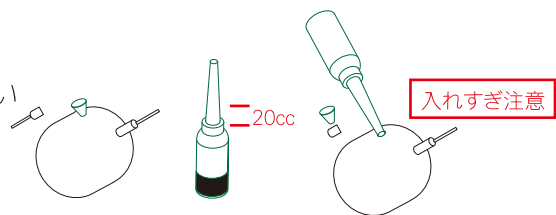
■ 長くご使用いただくために

ロケットバングを末永くお使いいただくために以下の維持管理をおこなってください

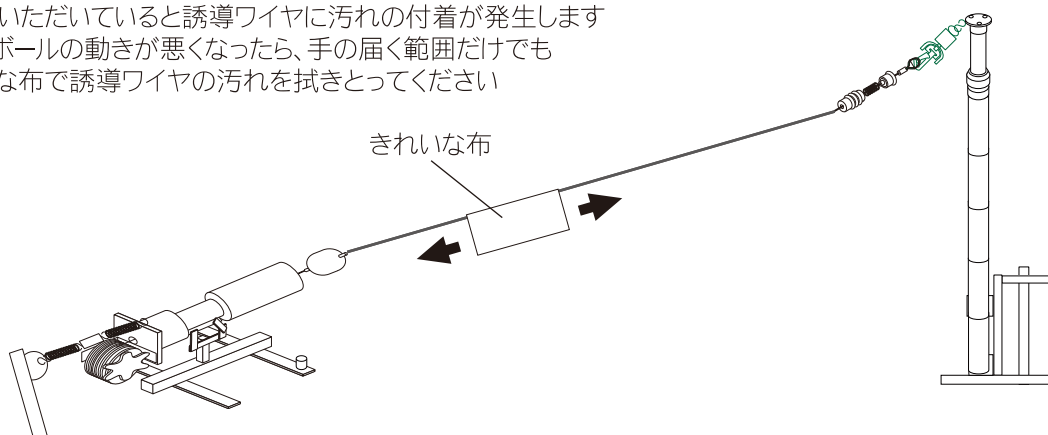
- 本機を使用していると誘導ワイヤが徐々に伸びていきます
特に使用開始初期 (1~2日後) は伸びやすくなっています
使用初期は1~2日程度、安定してきたら1ヶ月に1回は
誘導ワイヤの張りを確認してください



- おとしボールには定期的に給油が必要です
オイル注し (約20cc) 1本を10日に1回の割合で給油してください
但し、オイルの入れすぎには注意してください
(オイルは弊社純正商品をお使いください)



- ご使用いただいていると誘導ワイヤに汚れの付着が発生します
おとしボールの動きが悪くなったなら、手の届く範囲だけでも
きれいな布で誘導ワイヤの汚れを拭きとってください



■ 長期間使用しない場合

長期間使用しない場合は電子コントローラの乾電池を外し、
風雨や直射日光が当たらないところに保管してください

また以下の場所での保管は劣化の促進や電池の液漏れなど、動作不良や故障の原因になります

- × 直射日光が当たる、高温になる場所
- × 湿気の多い場所
- × ゴミや塵の多い場所
- × 農薬や薬品が降りかかる場所
- × 扇風機やエアコン、室外機などのモーターの近くやオゾンの発生が予想される場所
(ゴム類はオゾンなどによって劣化が激しくなります 特に調整器には部品としてゴムを多く使用しています)

長期間保管した後、使用を再開する際はガス漏れや誤動作などが無いか十分にご確認ください

■ オプション (別売)

プリント基板の外部入力接続端子に接続! タイムコントローラー



TT延長 0104030000
【TTC-LT】

- 爆音間隔を長くし、鳥が忘れた頃に爆音を発生して「慣れ」を防止します
- 時間は電子コントローラのつまみで調節可能(約30分～約400分)
- ガスの燃費向上に貢献



TT不規則 0104020000
【TTC-R】

- 爆音間隔をランダム(不規則間隔)にし、「慣れ」を防止します

対応機種

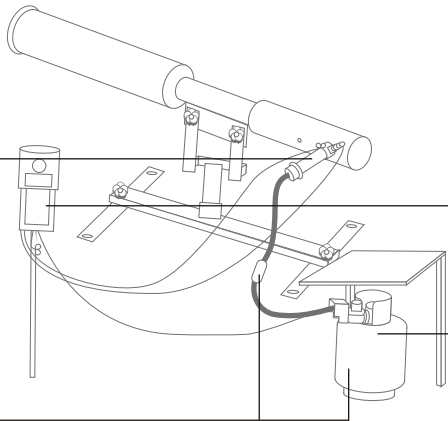
ジェットバング【TJB-5】 バードキラー【LPE-5】
バードパンチャー【TBP-C2】【TBP-P2】【LPE-BP2】【LPE-BPP2】
ロケットバング【TRB-5】【LPE-RB-C5】
ピッカー【TBR-5】 ドンピカ【LPE-H5】

※爆音間隔制御装置・タイガータイマー共通

■ 補修用性能部品の保有期間^{*}

当社の本機補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後7年です

^{*}製品の機能を維持するために必要な部品



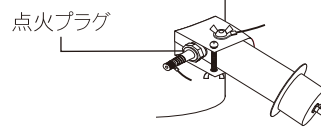
チェックの前に確認を!

- 主電源は「入」になっていますか?
- 昼・夜の設定は間違っていますか?
- 外部入力スイッチが外部側になっていませんか?
- 乾電池の残量はありますか?
→電池残量チェックランプで確認 (P14 参照)
- 乾電池は正しい向きにセットされていますか?
→6本とも同じ向き (上が-, 下が+)
- ガスボンベの残量は十分にありますか?



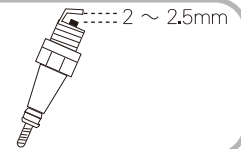
①点火プラグに草などが触れていませんか?

→草などを取り除いてください



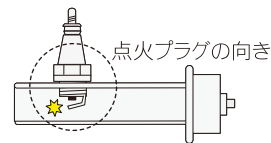
②点火プラグのすき間は2 ~ 2.5mmになっていますか?

→すき間を調節してください すき間の目安は500円玉の厚みです



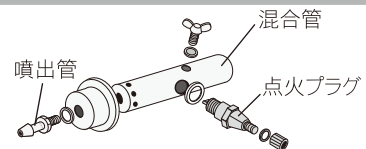
③点火プラグは正しい方向についていますか?

→正しい向きで取り付けてください



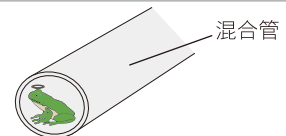
④噴出管にゴミなどが詰まっていますか?

→細い針金などで取り除いてください



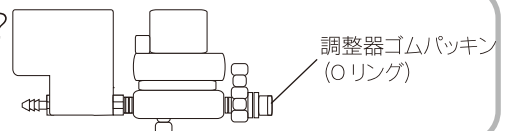
⑤混合管内にカエルや虫などが詰まっていますか?

→取り除いてください



⑥調整器ゴムパッキン(Oリング)が劣化していませんか?

→ガス漏れの原因になり大変危険です
新しいものと交換してください



⑦ガス漏れはしていますか?

→電磁弁が故障しています
新しいものと交換してください



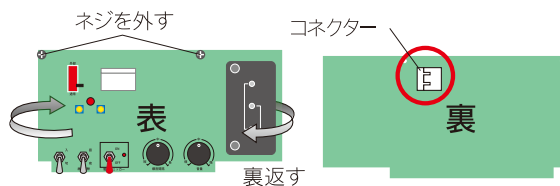
⑧ガスが適正量流れていますか?

→ガスボンベ残量や元栓の開栓確認をしてください
ゴム管が破損している場合や、
電磁弁が故障している場合は交換してください



⑨プリント基板 裏面の電源コネクタが外れていませんか?

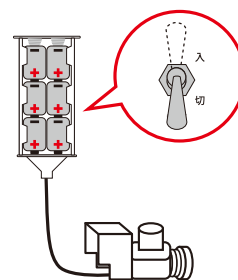
→電源コネクタを接続してください



●電磁弁・点火ユニットの動作検査

動作検査の前に

1. ガスボンベの元栓を締めてください
2. 調整器をガスボンベから外します
3. 電磁弁コードを電子コントローラに取り付けます (P00)
4. 主電源を「切」にします
5. 電池をセットします (電池残量を確認してください)



電磁弁の検査をします

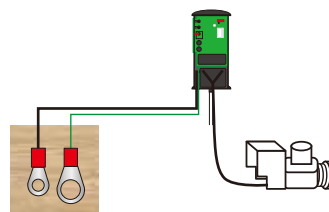
①電磁弁チェック端子の両端を針金などでショートさせます

→電磁弁から「カッチ」という開閉音がしたら正常です



点火ユニットの検査をします

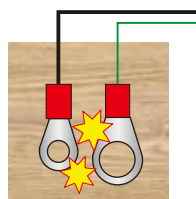
①高圧コードとアース線の丸端子を 1mm程度離して木台などの絶縁物の上にセットします



②点火ユニットチェック端子の両端を針金などでショートさせます



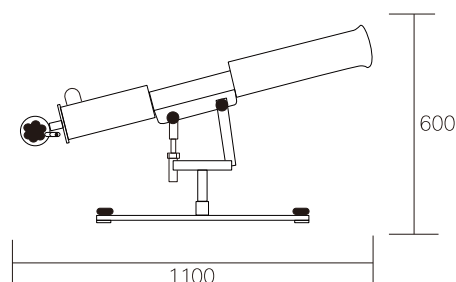
→高圧コードとアース線の丸端子間に火花が飛び、「パチパチ」と音がすれば正常です



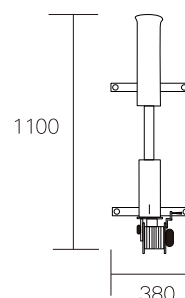
仕様

商品名	ロケットバング
商品コード	010135000
型式	TRB-5
電源	アルカリ乾電池単一形 6本
重量	本体部：約 18kg ポール部：13kg
運転モード	昼 / 夜
運転間隔	約 30 秒～約 10 分
ガス使用期間 (目安)	約 150 日 ※10kgボンベ使用で音量「中」、爆音間隔「中」にした場合の使用期間です 目安なので使用状況により変動します
電池使用期間 (目安)	約 60 日 ※三菱アルカリ乾電池単一形使用で音量「中」、爆音間隔「中」にした場合の使用期間です 目安なので使用状況により変動します
大きさ	幅 1100× 高さ 600× 奥行き 380mm

【横】



【上】



(mm)



ホームページ
www.tiger-mfg.co.jp

本社／大阪支店 〒565-0822
大阪府吹田市山田市場10番1号
TEL: 06-6878-5421 FAX:06-6875-5677
E-mail: info@tiger-mfg.co.jp

東北営業所 〒984-0030
宮城県仙台市若林区荒井東1-8-4東D-1
TEL: 022-349-5421 FAX:043-298-4889
(東京支店)

東京支店 〒262-0023
千葉県花見川区検見川町5丁目2348番地3-A
TEL: 043-298-4888 FAX:043-298-4889
E-mail: animal@tiger-mfg.co.jp

甲信越営業所 〒381-0045
長野県長野市桐原1丁目7番地1号101
TEL: 026-239-7591 FAX:043-298-4889
(東京支店)

九州支店 〒862-0969
熊本市南区良町2丁目8番12号
TEL: 096-378-0852 FAX:096-378-0906
E-mail: kyuusyuu@tiger-mfg.co.jp

奈良営業所 〒639-1123
奈良県大和郡山市筒井町463-1-10
TEL: 0743-23-1070 FAX:0743-23-1071

●仕様および外観は改良のため予告なく変更する場合がありますのでご了承ください